日刊 動労千葉

86. 9. 15

No.2351

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

全国の闘う力を一つに！「第三波スト」を軸に総反撃にうって出よう！

中野委員長提起＝9.7国鉄労働者全国交流集会

全国の現場で苦闘を続けている仲間達に、今こそ大同団結をして共同行動を職場からすすめていかなくてはいけないという思いで今日の集会を呼びかけた張本人ですが、なぜ私がそういう呼びかけを発しなくてはならなかったかということを話したい。

10－11月あらゆる手段で"総決起し、10・12国会大デモに大同団決・総決起しよう！
――「提起」にたつ中野委員長――

国労組合員が本線乗務からはずされるという攻撃が日常的にかけられているのだ。

動労―鉄労に亀裂が生じている

ふたつには、動労と当局をめぐる動きである。

動労は、八月二四日の動労全国地本三役会議をもって国労解体を具体化しはじめた。国労解体―動労組織拡大が進んでいない状況に危機感をつのらせ、松崎は大号令をかけた。九月の臨時国会までに動労五万にし、国労の過半数割れを実現して法案がとおる十一月までに国労を解体するというのだ。

松崎は、会議の中で鉄労に対して悪意、敵がい心をもあらわに「いま鉄労とやっている四組合共闘などあれは顔だけの話だ。腹は違うんだ」といってだから鉄労に主導権をとらせるな、動労がとるんだと息まいた。いま動労は「東京駅に支部ができた。電力区・施設にできた」と毎日のように宣伝している。

鉄労は鉄労で「動労革マルを来年三月三一日には全部排除しろ」と当局に正式に申し入れた。確実に亀裂が生じている。

敵は何をやっても許さない

八月二七日、「第二次労使共同宣言」がだされた。「第一次」は、来年三月の分割・民営化がすむ間、当局の施策に協力するというものだが、「第二次」は、来年四月以降の新事業体における労使関係をいっており、健全経営が確立するまでスト権が与えられても行使しないと労使双方でうたっている。これは恐しいものだ。

国鉄当局は、新しい会社にいけることがいいことのように宣伝している。しかも新しい会社の主流派をめざす労組がいっさい闘わない。すべて協力するといっている。新事業体が健全経営になるには大合理化と低賃金のもと、二十～三十年かかる。二〇二億スト損賠もそうだ。

このようなことが国労の「柔軟路線」のもとでやられ、当局は国労が譲歩すれば、その先までいってしまう。敵は何をやっても許さない。国鉄労働運動の中心の国労を完膚なきまで解体しつくさない限り分割・民営化攻撃の本質が終らないと敵ははっきりと知っている。

「柔軟路線」で攻撃を止められたか

ひとつには、国労をめぐる動きの中で否応なしにそう感じざるを得なかった。

先の国労大会は「大胆な妥協」方針を決定した。これほど欺まん・ペテンはない。完全な屈服路線だ。各地本大会が開催され先陣を切った北海道本部は「柔軟路線」を決めたとたんに自動車支部がそっくり国労脱退してしまった。

全国大会で「大胆な妥協」を決めたから国労に対する分裂・解体攻撃が弱まったか？流れはとまったか？まったく逆だ。国労は十三万台に落ちこんでしまった。

この情況の中で、現場の国労組合員は、中央の指令も闘う方針もないまま当局・動労・鉄労・真国労の組織破壊攻撃に対して人活センターにもっていかれながらもがんばりぬいている。

しかし、中央の屈服路線の中で攻撃は、せきを切ったように進んでいる。特徴的として、高崎での動労組合員を営業・施設へ送りこみ、玉突きで国労組合員が余剰人員化されていく。その過程で国労にいては雇用を守れない。脱退しろとの攻撃がかかっている。また、東京・新橋を中心とした運転職場では、全国から広域配転が送りこまれ、

国鉄労働者の決起こそ勝利への道

しかし、一見強固にみえる敵の側にも大きな亀裂と矛盾がうまれている。自分達のセクト的利害で結合している連中と、当局官僚が入り乱れて醜態を晒けだしている。

運輸省の概算要求における「精算事業団」の予算総額、八五年度監査報告、整備新幹線と分割・民営化方針の欺まん性が現実となってきた。

この状態を打開し、この矛盾を拡大していくには、国鉄労働者が団結し、強固な闘いを展開し、矛盾を徹底的に突きまくるならば、反撃し勝利することは全く可能である。

分割・民営化攻撃とは、国鉄労働者の決起なくしては粉砕できない。いま人活センター等を起点として、不屈な反撃が全国いたる所でまき起っている。勝利へのポイントは、この職場を軸とした非妥協・不屈の実力反撃の一つ一つを全国的に一つの力に組織化し、中曽根・杉浦・松崎打倒の大きな政治的反撃力に転化していく指導の問題である。動労千葉は、全国の仲間のありとあらゆる闘いの力と大同団結して「第三波スト」を軸に総反撃にうって出ることを第十一回定期大会で決定した。

十月の最大の山場に、われわれの力で、われわれ国鉄労働者の力で国会デモを貫徹しよう。十月十二日、全国から清水谷公園に総結集し、断固たる国会デモをかちとろう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！

全国で続こう！

（9/8付 山陽新聞）

ハンストに突入

国労岡山三分会 分割・民営に反対

国鉄の分割・民営に反対して国労岡山施設分会（八十六人）、同岡山機械区分会（二十六人）、同岡山気動車区分会（二十二人）の国労三分会の組合員が七日午後七時から、岡山市駅元町の岡山保線支区構の空き地など二カ所で五日間のハンストに入った。

この日、ハンストに入ったのは、三分会の非番や年休をとった組合員九人。二十四時間ごとにメンバーを交代し、十一日まで続ける。

これに先立ち午後六時から国労組合員、社会党、共産党、市民団体などから約百二十人が参加してハンスト突入集会が開かれた。藤井良男国労岡山施設分会長が「分割・民営を前提にした人材活用センターへの強制配置は指名解雇につながるものであり、絶対認められない。岡鉄局では、同センターへ配置された二百九十人のうち八割までが国労組合員であり、国労つぶしそのものだ。十一日召集の臨時国会で国鉄解体が正念場を迎えるが、法案阻止のため断固闘っていこう」とあいさつ。支援団体が次々とあいさつに立ち、分割・民営反対を訴えた。

ハンストに入った国労岡山施設分会の組合員ら

ガンバレ!! 第三波を共に闘おう!!

国労岡山の仲間たち——！

抗議文

国鉄当局は「分割・民営」が決まったかの如く、我々国鉄労働者の雇用不安を助長するものとして差別・選別・首切りを行ってきている。

しかし、「分割・民営」は今だ法的になんら決まっていない。これは明らかに国家的不当労働行為である。又、その進め方においても権力的に行うその行為は非人間的蛮行である。

特にその最右のトドメともいえる攻撃が7月1日から全国的に開始した人活センター設置である。この人活センターは当局がいう「余剰人員の活用策」というものでは決してなく、差別・選別のもとに余剰人員の特定化を狙った、まさに「首切りセンター」である。

既に岡山管理局内においても第5次にわたり約300名の労働者が収容されている。そしてゆくゆくは、1800名（3人に1人）をこの「首切りセンター」へ収容しようとしている。

我々はこの首切り攻撃を断じて許すことはできない。

我々は 1) 「分割・民営」化阻止！

2) 国鉄解体法案粉砕！

3) 人材活用センターは絶体に認めない！

4) 10万人首切り反対！

5) 北方踏切業務移管反対！

以上を社会的に満身の怒りをこめてアピールし、ハンガーストライキに決起し「生命」をかけて断固抗議する。

1986年 9月7日

国労岡山地方本部

岡山施設分会ハンスト突入集会

※全国各地・各職場の闘いの報告、情報・意見等をどんどん寄せて下さい。（「日刊」編集局）

座して死を待つよりも、今こそ起って闘おう！

「大胆な妥協」＝みじめな屈服 路線の中からは、何も生まれない。

敵の国労破壊に拍車をかけるだけだ。

全国の職場には怒りが満ちあふれ、闘う力が今、今ならまだある。

「今」こそ起とう！

「明日」では、遅い!!

国労 岡山施設 岡機 分会

ハンスト実行委員会

1986年 9月9日

No. 2

国鉄「分割・民営化」阻止！ 首切り（人活センター）粉砕！

闘いの輪が拡がる

支援者続々！

国労岡山動労支部 青木栄吉
国労岡山機械区分会 堤良分会長
国労岡山気動区分会 井上稔雄
国労岡山動労東京支部岡山分会 坂上清彦
国労岡山地本職員 坂本勝彦
大学生連 大学生
岡山農民協議会 宮 政司
水谷 豊、谷川義彦、中谷 衛、太田 徹、他13名 の支援団体及び支援者高校生にかけつけていただきました。

メッセージ!!

岡山に決起された仲間に敬意を表します（岡山市職員分会）

他6通がとどいています。

又、他に全国各地から多数の激励がとどいています。

全労働者の問題へと発展

最後までハンストを貫徹するぞ！

（要求なしでの首切り攻撃粉砕。
北方踏切業務移管反対、首切撤廃）

私達の要求

私達は首切り攻撃、指名解雇のはじまりであり国労つぶしの何ものでもない。「人活センター」設置を絶対認めない。今ここに声を大にして以下の点について要求する。

一、国鉄「分割・民営化」反対、10万人の国鉄労働者の首切りを許さないぞ!!

二、過員を特定化し、その労働者を職場から排除収容するための人材活用センターをただちに解散せよ!!

三、国労つぶしを許さないぞ!!

四、国会での国鉄改革法案が審議も何もされていないのに「分割・民営化」を先取りしたやり方こそ「法を無視」した国家的不当労働行為である。ただちに撤回せよ!!

五、人権無視は許さないぞ!!

六、北方踏切業務移管を撤回せよ!!

以上の要求を申し入れるものであり、すみやかに回答を求める。私達は、明確な回答がなされるまで、死を賭してハンガーストライキをもって要求するものである。

要求書

1986年9月7日

岡山鉄道管理局長
小澤敬之助殿
岡山保線区長
梅林重殿

私達は首切り攻撃、指名解雇のはじまりであり国労つぶしの何ものでもない。「人材活用センター」設置を絶対認めない。今ここに声を大にして以下の点について要求する。

1) 国鉄「分割・民営」化反対、10万人の国鉄労働者の首切りを許さないぞ!!

2) 過員を特定化し、その労働者を職場から排除収容するための人材活用センターをただちに解散せよ!!

3) 国労つぶしを許さないぞ!!

4) 国会での国鉄改革法案が審議も何もされていないのに「分割・民営」化を先取りしたやり方こそ「法を無視」した国家的不当労働行為である。ただちに撤回せよ!!

5) 人権無視は許さないぞ!!

6) 北方踏切業務移管を撤回せよ!!

以上の要求を申し入れるものであり、すみやかに回答を求める。私達は、明確な回答がなされるまで、死を賭してハンガーストライキをもって要求するものである。

国鉄労働組合 岡山施設分会
執行委員長 藤井良男
ハンガーストライキ実行者一同